



祝 辞

Tomaru Tokuji

社団法人 日本技術士会 会長

都 丸 徳 治

ただいまご紹介にあずかりました技術士会会長の都丸です。よろしくお願いたします。来賓ということですが私も会員の一人ですので恐縮しております。高い所から一言ご挨拶を申し上げます。

北海道支部 40 周年まことにおめでとうございます。技術士法が成立して来年で 50 年。今年は会そのものが設立されて 55 周年ということですから、技術士会を設立して 15 年たつて北海道支部が設立されたこととなります。大変長い歴史を持っている支部の一つであります。支部としても大変活発な活動を展開しており、また、日ごろ技術士会本部を支えていただいております。厚くお礼申し上げます。

技術士会は今年 55 年という記念すべき年となりますので、秋の全国大会を、わが国最初の宇宙飛行士である毛利衛さんに記念講演をお願いしております。皆さんもぜひ秋の全国大会にも参加していただきたいと思っております。

大変なご来賓の方においでいただいておりますので、ごく簡単に 2 点だけお話をしたいと思います。まず一つ目は、先ほどの本日の記念講演会で支部の活動から芽を出した社会貢献のお話を伺いましたが、まさにそのことで技術士はもう少し社会の中に出て活動してほしいということです。北海道支部はそれらをすでに実行しておられるわけで、大変心強く思います。どういうことかと言いますと、平成 12 年に科学技術基本法が制定されて以来、2 期にわたり科学技術基本計画が策定され実行されてきました。今年 4 月からは第 3 期科学技術基本計画が始まりました。第 1 期基本計画においては、科学技術の振興のために制度的な改革と資金投入を重点としました。第 2 期においてはこれからの有望な重点 4 分野、すなわちライフサイエンス、環境、情報通信、ナノテクノロジー・材料を中心に集中的に投資しました。第 3 期計画は、第 1 期計画、第 2 期計画の実施状況を踏まえた上で、やはり人材育成に力を入れる必要があるということで、「モノから人へ」をスローガンに掲げております。メニューには学者や研究者の育成を始めいろんな計画があるのですが、社会のニーズにこたえる技術者を育てよう、それから科学技術コミュニケーターを養成しようというのがあります。まさに技術士の方々に投げかけられた課題ではないかと思っております。

先ほど、既に北海道支部では 3 つの研究会といいますか委員会がすでに社会貢献を始めている事をお聞きしました。あのような活動を日本技術士会としてもこれからは組織的にも展開して欲しいということです。このことは科学技術基本計画を技術士としてあるいは技術士会として支援していくことのほかに、技術士そのものの存在を社会に見えるようにしていこうということです。日本技術士会は創設 55 周年を迎えますが、必ずしもその存在が広く認識されているとは言えません。第 3 期科学技術基本計画を全面的にバックアップする活動を展開していくことで、社会貢献を果たすとともに、技術士や技術士会そのものの存在価値を高めていこうということです。

もう一つは、技術士の資質についてです。技術士会が最初にスタートしたときは JCEA、ジャパン・コンサルティング・エンジニアズ・アソシエーションということでした。どうもコンサルタントというのを非常に意識しておりました。平成 12 年に技術士法が改正されたわけですが、それと同時に IPEJ、ジ・インスティテューション・オブ・プロフェッショナル・エンジニアズ・ジャパンと名前を変えました。日本は技術士会というのを設立しましたけれども、歴史的・制度的な背景もあったと思っておりますが、どうも日本の技術士会はプロフェッ

シヨナル・エンジニアという意識が少し足りなかったのではないかと考えています。プロフェッショナル・エンジニアというのは、もちろん学術に優秀であり、常に研修を怠らず技術の維持に努めている、また、技術者としての倫理観があるとかいろいろありますが、もう一つ重要なことは、やはり技術士集団プロフェッショナル・エンジニアの集団として団結して活動してこなかったことではないかと思っています。

現在、技術士登録をしている人は約5万6,000人おられるのですが、技術士会に入っているのは1万1,000人ぐらい。会に入っていない人も、いわゆるペーパーライセンスみたいなので活躍している人がたくさんおられます。これでは、やはりプロフェッショナル集団としての価値も上がらないし、自己規制も起こらないのではないかと考えております。ですから二つ目は、技術士の皆さんにプロフェッションとしての意識を持っていただき、技術士会に結集し、倫理をはじめとする自己研鑽をするのはもちろんのこと、プロフェッショナル集団としての自己規制の下に社会の信頼を得て、ひいては地位を高めていくことが重要だと考えています。そのために技術士会として倫理を含むCPDの充実を図るとともに、CPD認定会員制度を発足したいと考えています。それから、皆さんのところにも会員になっておられない方のところには手紙が行ったと思いますが、技術士全員の登録データの最新化をはかり、技術士全体の管理を充実していきたいと考えています。

技術士会はいろいろな課題を抱えておりますけれども、北海道もぜひ技術士センターと技術士会が一緒になって一丸となってプロフェッション意識を持って世の中に技術士としての地位の向上と活動の場を広げていっていただきたいと考えております。それと同時に技術士会本体も全国的にそういうことをやっていこうと考えております。

以上、二つの点を皆さんに申し上げましたけれども、北海道は既にそういうことが実施に移されつつあるわけですが、ぜひこれからの技術士の地位の向上を図り、活動の世界を広げていくためにも積極的に推し進めていっていただきたいと思っております。

北海道支部、あるいは北海道支部の技術士の方々の益々のご発展を祈念しまして、簡単ですが私のお祝いの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。